

平成 30 年度 横浜能楽堂指定管理者業務評価表（外部評価）

	横山委員長	芦澤委員	足立委員	諸貴委員
I 施設管理目標	<p>【評価できる点】 堅実に運営されている。業務報告においてアンケート回答を示して課題を明らかにする姿勢を評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 堅実な施設管理が行われていることを確認いたしました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。施設が老朽化していく中で、引き続きの堅実な施設管理を期待します。</p>	<p>【評価できる点】 必要な点検等を実施し、適切に管理がされています。利用者の立場から見ても快適で、清潔に維持されています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 施設を長期的に使用するという観点から、引き続き、施設を現場で管理する人ならではの、施設に係る不具合等の気づきについて、市との情報共有をお願いしたい。</p>	<p>【評価できる点】 施設設備の適切な維持管理が行われていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>
II 施設運営目標	<p>【評価できる点】 利用促進に向けた広報営業、情報発信に取り組んでいることだけでも評価する。さらにそれが各種利用料金割引制度の利用、団体見学会の実現といった具体的な成果となった。施設利用者数、利用料金収入とも昨年を大きく上回っている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 利用率、利用料は、現在の取り組みの延長でぜひ全施設で目標を達成してほしい。Webでの発信にはまだ改善の余地がある（PDFリンクを減らす、MICE関係の情報充実等）。</p>	<p>【評価できる点】 新たに割引制度を導入したり、近隣マンションのポストティング、顧客名簿を利用したDM送付など、しっかりと計画し、それを行動に移し、施設稼働率の向上を目指していることを評価いたします。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 新たな施策については、適宜振り返り、コスト対効果や適正価格の評価を行って行ってください。</p>	<p>【評価できる点】 求められる水準に応じ、適切に施設を提供し、運営しています。また、新規利用者を増やすための工夫を様々に取り入れているところは評価できます。 新しい割引制度を導入し、実際に利用されたことから、施設の利用促進が期待されます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 目標値を上回っていない利用料金収入は、利用者数増加や単価向上等の対応が必要です。</p>	<p>【評価できる点】 ワークショップ付き施設見学会や SNS 等の活用により施設利用増加やサービス向上への様々な取り組みを行っていることを評価します。施設利用の対前年収入額及び利用率が増加していますが、今後はさらに目標達成に向け前進されることを期待します。また、人材育成についての取り組みも適切に行われていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>
III 文化事業目標①	<p>【評価できる点】 今年はとりわけ山口晃とのコラボレーションが素晴らしかった。能と接点を持ちうる現代アート作家とのコラボレーションが、点から線につながりつつある。美術愛好者を能の世界に取り込む可能性を感じた。施設見学会付の和のワークショップに計 351 人の参加者があったことも素晴らしい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 引き続き高い企画力と実行力で多くの魅力的な公演を行い、高い集客率をあげていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 若年層へのアプローチに尽力されている様子が見られますが、さらに新しい顧客層の掘り起こしにさらに取り組んで行ってください。特に国際都市横浜のインバウンド需要の掘り起こしに期待します。インバウンドについては横浜市との連携が進んでいくとよいと思います。 新しい顧客管理システムが 2019 年 4 月から稼働したと聞いています。誰に利用してもらいたいのか、そのための事業内容と適正価格について、現状に満足することなく分析し進化を進めて行ってください。</p>	<p>【評価できる点】 券売率や入場者数は目標を上回るものが多く、演目に応じた広報（学校関係への広報等）が奏功していると考えられます。 券売率 100%となっている「山本東次郎先生の狂言の時間」や「眠くならずに楽しめる能の名曲」では、分かりやすい解説やその中で心理的な壁をなくす工夫がされており、普及の観点から今後も効果的な演目となると思います。今後もいかに見たことがない人、来たことがない人に情報を届け、足を運んでもらえるかが鍵。企画名称のネーミングもポイント。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 定例的な公演においても新規顧客開拓や不断の改善がさらに期待されます。</p>	<p>【評価できる点】 充実した公演事業とそれに伴う広報活動が行われたことを評価します。特に自主制作作品が他劇場及び海外でも上演されたことを高く評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 公演によっては集客に苦慮されたという点についてはその要因を分析して今後の事業に活かされることを期待します。</p>

平成 30 年度 横浜能楽堂指定管理者業務評価表（外部評価）

	横山委員長	芦澤委員	足立委員	諸貫委員
Ⅲ 文化事業 目標②	<p>【評価できる点】 「Ⅱ 施設運営目標」で述べたことと重なるが、対外広報を積極的に展開し、実績をあげている。地域連携も素晴らしい。動画発信をニコニコ動画にかえてYouTube チャンネルに切り替えるといった機動的な対応ができています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 公演、講座記録のアーカイブ化。</p>	<p>【評価できる点】 ワークショップを強化されたようです。企画実施に手間がかかるワークショップですが、参加者体験型の取り組みは確実にファンのすそ野を広げると思います。実施場所の拡大も検討し今後も続けていってください。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 以下3点について今後さらに取り組んでいかれると良いと思います。これら取り組みにוותいて、横浜市芸術文化振興財団が運営する施設との連携がさらに進むことを期待します。 ①伝統芸能とテクノロジーの融合 ②他の芸術分野との積極的な連携 ③SNS等マーケティング手法のさらなる導入</p>	<p>【評価できる点】 人員を配置し貸館営業を充実させています。 また、従来から指摘のあった多言語対応で英文解説、タブレットガイドを用意したり、YouTubeでの動画配信など新しい取り組みも進めています。 山口晃氏の展覧会等、新しい企画によりこれまで能楽堂に来たことがない人を呼び込む努力をしています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 インバウンド誘致や地域連携等は、施設単体ではなく、市の関連部署の協力も必要であり、市との緊密な連携が重要です。</p>	<p>【評価できる点】 能楽堂自体の魅力発信のための取り組みが行われていることを評価します。特に特別展が公演と連動して大きな話題となり、多くの観覧者があったことは素晴らしい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 常設展についても今後観覧者を増加させるよう期待します。</p>
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】 昨年同様、助成金は獲得目標額には達していないが、目標額自体が高い。獲得額自体は立派である。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 行政評価の指摘とまったく同じ。</p>	<p>【評価できる点】 黒字決算になっています。収入に見合った管理をされたことを評価したいと思います。 特に今回、比較的大口の企業協賛獲得実績がありました。新しい取り組みを高く評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 収益向上についてさらなる検討を進めていってください。「価値あるものを企画実施し、きちんと対価をいただく」という経営姿勢が、中長期的な観点から、継続的な横浜能楽堂の存続にとって重要であると考えます。</p>	<p>【評価できる点】 外部資金の獲得が目標を大幅に上回ったことは評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 利用料収入が前年度より増加したものの、目標まで達成されなかったため、一層の利用促進が期待されます。</p>	<p>【評価できる点】 適切な経費の使用と節減及び収入増加への取り組みが行われていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>
その他	(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)	(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)	(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)	(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)

	横山委員長	芦澤委員	足立委員	諸貫委員
総括	<p>昨年度は、公演以外の利用促進の様々な取り組みがスタートしたことを画期的であったと評価した。今年はそれが施設利用の多様化、活性化の実績に結びついている。広報営業、情報発信、組織体制構築の努力の賜物として高く評価したい。</p>	<p>ここ1-2年、専門性あるスタッフが連携して、組織的に活動している様子が見られます。その結果、従来からの高い講演企画実施力に加えて、新しい施策の実績が数多く見られます。今後もこの経営体制をしっかり堅持し伝統芸能の品格を守りながら進化して行ってほしいと思います。</p>	<p>継続事業に加え、第3期で提案された事項を実行に移し、検証と改善を行っている点が評価されます。施設利用率については、様々な取り組みを行っているが前年度並みになっています、公共施設として一層の向上を目指してください。 減免や割引制度については、利用率や利用者数が増加するものの、収入面で逆に働くことも考えられ、単年度の視点だけでなく、中長期的な利用促進の観点から、何が有効かを探る努力を続けてください。</p>	<p>第三期指定管理初年度だった29年度に続き、今30年度も公演事業始め積極的に様々な事業展開がなされ、多くの目標が達成されたことを高く評価します。引き続き市民を始めとした一般に向け能楽及び能楽堂の魅力を発信していかれることを期待します。</p>

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
I 施設管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	①文化財(能舞台)の適切な保護 ②中長期的な視点による総合的な施設(建築物)、建築設備、舞台設備、備品等の保守管理の遂行 ③清掃、廃棄物処理及び環境への配慮等、植栽管理業務等の環境維持管理業務の実施 ④駐車場管理業務の実施	■日々の手入れと点検を実施し、必要に応じて専門業者による管理・メンテナンスを実施	実施	実施	業務に基準に記されているとおり適切に管理しました。	【成果】 日々の保守管理、維持保全の結果、過失事故もなく、また開館から23年を経過していますがお客様から快適性に高い評価をいただくことができました。 【課題】 アンケートではトイレの更新を希望するご意見が多数寄せられました。今日の利用者ニーズに応えられるよう、他施設を参考にして改修等を検討する必要があります。	【評価できる点】 ・業務の基準に基づき、施設及び設備の保全・管理、小破修繕、緊急時や防災に対する取組が行われていることを確認しました。 【更なる取組を期待する点】 ・開館から、22年以上経過していることから、施設の劣化状況等、引き続き日常的な監視を適切かつ確実に実施していただくとともに、今後の改修等を見据え、アンケートによる来場者の方の御意見等、当課とのきめ細やかな情報共有を求めます。 また、指定管理者の本部を含め市と適切な情報共有を行い、速やかに修繕対応等の検討を進めてください。
		■職員および施設管理委託者による毎日の巡回と目視での点検により不具合の早期発見に努める	実施	実施	定期的な巡回のほか、利用後の状態確認を職員が行い、不具合発見時は報告書を作成しました。		
		■施設利用後の速やかな点検の実施	実施	実施	職員点検後に警備員が最終巡回を行い、施設等安全確認を徹底しました。		
		■台風・大雨後の巡回点検強化	実施	実施	速やかに点検し、状況を市に報告しました。		
		■建物設備管理に起因する過失事故0件	適切な管理実施	適切な管理実施	業務の基準に記されているとおり適切に管理しました。		
		□アンケートでの快適評価	4.0	4.53	A 来場者全員にアンケート用紙を配布しました。「スタッフ対応・サービス」「施設の快適性」等についてご意見を伺いました。		
		■環境維持管理に起因する過失事故0件	適切な管理実施	適切な管理実施	業務の基準に記されているとおり適切に管理しました。施設利用後は職員及び清掃員で点検を行い、汚れを発見した場合は迅速に対処し報告書で情報を共有しました。		
		□駐車場の保守点検	年2回以上	9月14日、3月7日実施	B 9/14、3/7に実施。電気回路修理を実施しました。		
		■駐車場および車両に起因する過失事故0件	0件	適切な管理実施	— 車で来館されるお客様がスムーズかつ安全に利用できるよう警備員と協力して対応、タクシー利用が多い公演時は警備員等による安全確保に努めました。		
		□備品(収蔵庫)管理 害虫駆除	年2回以上	6月11日、12月3日実施	B 6/11、12/3に実施。害虫は発見されませんでした。		
□植栽管理	年2回以上	7月、10月、1月実施	A 7/17-20、10/16-19、1/16-17 除草・剪定・刈込業務及び薬剤散布を実施。				
2 小破修繕への取組	①日常の管理・毎月の点検における不具合・不調箇所の早期発見、早期の小破修繕等の対応 ②利用者の安全に関わる事案への最優先対応 ③不具合箇所等の市への報告による情報共有の実施	■日常の巡回点検、毎月実施する定期点検の中で不具合・不調箇所の早期発見に努め、部品交換や小破修繕の実施	実施	実施	— 日常の管理、毎月の点検で、早期発見と適切な対応に努めました。	【成果】 日常点検等を通じ館内各所の状態を把握し、適切に小破修繕を実施し、また施設の状態について市と適切に情報を共有しました。 【課題】 設備の老朽化が進行しています。修繕部品の調達が困難になるなど今後の対応が難しくなるケースも予想されます。	
		■問題箇所は、指定管理者本部施設管理チームからのアドバイスも参考にして対応	実施	実施	— 施設管理チームと情報を共有し技術的なアドバイスや他施設の類似事例に基づくアドバイス等を受けました。		
		■不調箇所はモニタリングを通じて市と情報共有	実施	実施	— モニタリング時に情報を共有したほか、重要案件については発生後速やかに情報共有しました。		
		■利用者の安全に関わる事案については、随時市に報告し対応を協議	実施	実施	— 適切に実施しました。		
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理	①各種事故等対応マニュアルの運用、整備 ②事故防止策、緊急時(防犯)対応 ③感染症対策等衛生管理の方針の策定 ④緊急時の連絡体制、防災に対する取組	■各種マニュアルを整備し備え置き	実施	実施	— 危機管理マニュアルについて館内で再確認しました。	【成果】 更新された館内カメラ等の機能を活用して事故防止等に取り組む、安全に施設を運営することができました。 【課題】 今後も警察や行政などからの情報を基に、引き続き防犯等に取り組む必要があります。	
		■職員、補助職員、委託業者(清掃員)による施設内巡回等による速やかな対応	実施	実施	— 所定の巡回を滞りなく実施すると共に、館内各所の不具合等について積極的に情報を共有しました。		
		■緊急連絡網を作成し連絡体制を構築	実施	実施	— 年度当初に緊急連絡網を改訂しました。		
4 防災に対する取組	①各危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施 ②消防訓練(年2回実施) ③指定管理者本部からの情報提供 ④外国人来場者への案内 ⑤延命講習の受講 ⑥汚物処理研修 ⑦救急時の医療機関への搬送	□消防訓練(来館者・外国人・障がい者の避難誘導訓練を含む)	年2回	7月20日、1月22日実施	B	【成果】 定例の消防訓練を実施するとともに、各訓練に消火器の取り扱い、専門業者による防災監視盤の説明などを併せて実施し、施設全体での非常時の即応力の強化に努めました。また訓練時においても事前に役割などを定めず実施し、実態に即した防災対応力を向上させました。 【課題】 高齢の利用者の多い施設であることからいざという時に迅速に行動できるように救命救急に関する職員の意識を高める必要があります。	
		□消防設備の取扱研修	年2回	7月20日、1月22日、3月6日実施	A		
		■より実際に則した状況での「シナリオなき消防訓練」	実施	実施	— 7/20、1/22に消防訓練を実施、7/20、1/22、3/6には消火器取扱、防災監視盤取扱い研修を実施、うち1/22の研修時にはシナリオに抛らない訓練として、臨機応変に行動できるように取組みました。		
		□普通救命講習1を全職員が受講済とする	全職員の実施	実施	— 新規配属職員対象に所定の講習を実施しました。		
		□ノロウイルス等対応研修	年1回	7月20日、1月22日実施	A		
		■救急時は救急医療機関を紹介、搬送の手配	実施	実施	— 救急搬送は発生しませんでした。貸館ご利用者に、休日診療情報を提供しました。		
		■事務室及びチケットブースで近隣の診療所や救急相談センターの情報を共有	実施	実施	— 近隣急患診療所、休日診療情報等を共有しました。		

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 能楽等の公演、稽古、創作その他の活動のための施設の提供	1 適切な施設の提供、運用	■開館時間 午前9時～午後10時	実施	実施	計画どおり開館しました。	【成果】 全項目を適切に実施しました。利用申込受付は郵送も可とし、利用者の利便性を向上させました。 【課題】 開館時間や受付時間については、利用状況等を鑑み、より適切な時間とし、限りあるマンパワーを最適配分する必要があります。	【評価できる点】 ・業務の基準等に基づき、適切に施設を提供するとともに、貸館の促進や施設のさらなる活用に向けて、施設見学会やMICEに関するプラン提案へ取り組み、見学会等の実績に繋がっていることが確認できました。また、施設の運営やサービス向上に努めるとともに、個人情報保護のほか、公共施設として対応すべき事項が確実に実施されていることを確認しました。 ・昨年度から検討していた、割引制度を導入し、新規利用の促進に繋がっていることを評価します。 ・様々な取組により、本舞台の利用率について、目標を上回る実績をあげていることを確認しました。 ・業務の基準通り、要望・苦情等へ適切に対応、職員間で共有を行うとともに、アンケートの回収率を高める工夫などを行っていることが確認できました。	
		■受付・チケット販売 午前9時～午後8時	実施	実施	計画どおり営業しました。			
		■貸館受付 午前9時～午後10時	実施	実施	計画どおり受付しました。			
		■利用料金の設定: 現行の利用料金体系を継続。教育機関の貸館利用については半額減免制度。	実施	実施	適切に実施しました。教育機関の半額減免実績3件。			
		■受付方法: 横浜能楽堂条例施行規則に則り、能狂言とそれ以外の古典芸能で受付開始日を変えて受付	実施	実施	従来通り本舞台は能狂言を24か月前から、その他の古典芸能は12か月前から受付しました。			
		■支払方法: 現金、振込、郵便局払込で收受	実施	実施	現金のほか振込でも收受し、利用者の利便性を図りました。			
	2 貸館の利用率が高まる工夫による施設の利用促進	■古典芸能鑑賞会、施設見学会等について学校や旅行代理店にプランを提案	実施	実施	大手マンション管理会社、旅行会社等に団体単位の施設見学プランを提案し、2件実現しました。	【成果】 パーティー利用について料金設定とプランを策定し、企業向けの提案書を作成しました。 【課題】 インバウンドやMICEでの利用促進は当館に期待されている分野であり、今後もアプローチ先の開拓やニーズの把握を行い、利用につなげていきます。	【評価できる点】 ・Twitterやウェブサイトを活用して様々な古典芸能等のジャンルで施設の活用ができることのPRを継続し、新規利用に繋がっていることを評価します。 ・フリーWi-Fiの運用を行い、来館者のサービス向上に寄与するだけでなく、誰もが能楽等へ親しみやすくなるよう、公演等での活用を行っていることが確認できました。	
		□アプローチ件数	15件	13件	B 旅行代理店、学会等イベント運営企業等、様々な業態の企業に施設の特性やソフト一体型パッケージプランを紹介し、団体利用の促進に努めました。			
		□商談件数	3件	4件	B 団体見学会、学会レセプション利用等、公演利用にとどまらない新たな形態での施設利用について積極的にPRしました。			
	3 新規の利用者を増やすための工夫	■利用案内のDMを送付し貸館を周知 平成30年度 利用案内DM送付件数	実施 実施	実施 実施	実施 実施	— —	【成果】 新規利用者増をはかる取組として、5月から「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」の3種を開始、「初めての朝割」4件、「応援割」9件の利用がありました。 【課題】 新規の取組として更なる広報が必要です。	【更なる取組を期待する点】 ・今年度策定した多様な利用に向けたプランに基づき、横浜能楽堂側からのアプローチを継続することで、能楽堂としての品格は維持しつつ、アフターコンベンションなどのMICE等や撮影等での施設利用を積極的に受け入れる姿勢を引き続き示すことを期待します。 ・割引制度の運用等について、実績が出てきているため、取組の効果分析を行い、継続を行うだけでなく改善についての検討を進めてください。 ・利用率が増加している一方、利用料金収入は目標未達であるため、貸館の促進をさらに進めることなどにより、利用率と利用料金収入の一体での向上を期待します。 ・貸館の積極的な促進等に向け、引き続き、運営体制及び広報協力の柔軟な対応を求めます。 ・タブレットの導入やフリーWi-Fiの運用等により、東京2020オリンピック・パラリンピック等を契機として、外国人観光客、古典芸能の初心者等、誰もが公演を楽しむ機会提供に向けて積極的に活用することを期待します。 ・安定的な施設運営が行える体制を維持するとともに、引き続き、事業企画や施設管理等の職員配置や育成等のノウハウの蓄積が必要です。
		□過去施設利用者	50件	50件	B 横浜観光コンベンションビューロー提供の旅行/イベント/情報出版等企業リスト掲載団体に対して年間2回、延べ50件発送しました。			
		□近隣住民	年2回	年4回	A 近隣マンションを対象に、5、7、9、12月の計4回に、直近の公演や季節の特別見学会等の案内のポスティングを実施、施設の魅力をPRするとともに新規利用の可能性のある住民の開拓に努めました。			
		□横浜能楽堂顧客名簿	3,000件	5,399件	A 利用者、チケット購入者等に対して施設利用の割引プラン等の周知を実施しました。			
		□大学能楽サークル	10件	30件	A 4月、3月に発送しました。			
		■初めて割(午前または25歳以下の利用者)と応援割(ワークショップ修了者)の仕組みの周知	実施	実施	—	新規施策として、プレスリリース、WEB掲載、「橋がかり」掲載等により周知しました。		
	4 指定期間における利用料金収入、利用率の考え方、利用率の達成	□平成30年度 利用料金収入	16,200千円	15,742千円	B	前年度実績14,395千円(前年度比+9.4%)	【成果】 利用料金は前年度に比べ9.4%増と大きく伸びています。本舞台については公演リハーサル等で活用し利用率目標を達成するとともに、本番と同じ環境での制作となり、作品の充実につながりました。 【課題】 利用料金収入、第二舞台と研修室3・4の利用率が目標未達です。 「初めての朝割」など新規の割引制度の一層の広報が必要です。	【成果】 計画どおり適切に実施しました。 【課題】 新規利用者を増やすためには、能楽以外の利用を増やしていく必要があります。施設の設置目的やステイタスを守りつつ、より多くの方にご利用いただくための運営マニュアルの整備が必要です。
		平成30年度 施設目標利用率						
		□本舞台(日)	42% (平成33年度50%)	44%	B	前年度実績50%(前年度比▲6%)		
		□第二舞台(日)	62%	56%	B	前年度実績57%(前年度比▲1%)		
		□研修室1・2	32%	34%	B	前年度実績34%(前年度比±0%)		
		□研修室3・4	48%	46%	B	前年度実績46%(前年度比±0%)		
(参考)施設利用者数	—	57,672人	—	前年度実績52,026人(前年度比+10.9%)				
5 貸館、舞台の適切な運営体制の整備	■開館時の運営体制: 1階 補助職員	3名以上	3名以上	—	計画どおり配置しました。	【成果】 計画どおり適切に実施しました。 【課題】 新規利用者を増やすためには、能楽以外の利用を増やしていく必要があります。施設の設置目的やステイタスを守りつつ、より多くの方にご利用いただくための運営マニュアルの整備が必要です。		
	■開館時の運営体制: 事務室 職員	2名以上	2名以上	—	早番2名、遅番2名を最低人数として、利用内容を踏まえ適切な人数を配置しました。			
	■本舞台利用時の運営体制: 舞台技術者による対応	1名以上	1名以上	—	利用者の要望に応じて、申合せ・リハーサル時も配置しました。			
	■本舞台における公演・発表会の開催時の運営体制: 補助職員	2名～4名増員	2名～4名増員	—	公演内容を踏まえ適切な人数を配置しました。			
	■事務室の職員全員が貸館に対応できるよう、マニュアルを整備	実施	実施	—	適切に実施しました			
	■貸館の手引きを備え置きし、利用者に施設利用に関する情報をわかりやすく伝える	実施	実施	—	適切に実施しました			
	■スタッフのノウハウを活用した『利用者サポート』(公演事前準備支援、公演等制作支援、稽古場探し支援)を実施	実施	実施	—	近隣施設の券売・広報協力、日本舞踊公演演目相談など12件のサポートを実施しました。			
	■能楽以外の利用について能舞台固有の利用制約についての相談・サポート	実施	実施	—	ドラマ撮影、短編映画撮影など7件のサポートを実施しました。			
■毎月発行の催し物案内広報物「橋がかり」へ本舞台・第二舞台の公演・発表会等の情報を掲載し、貸館催事の広報に協力	実施	実施	—	貸館の公演情報も掲載し、広報協力を行いました。また、掲載内容の誤記載がないように校正を徹底しました。				

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

6	要望・苦情への対応、職員における共有	■公演ごとに実施するアンケートを分析し、お客様の要望・苦情を把握し対応	実施	実施	-	公演アンケート内容について迅速に集計、共有し、施設運営/事業企画の基礎資料としています。	【成果】 トラブル対応については、迅速にレポートを作成、職員や市担当者と共有することで、施設の現状や顧客ニーズの理解につながりました。 【課題】 顧客ニーズの把握は、定例のアンケートに加え、詳細な聴き取り方式や、貸館利用者へのアンケートなども検討する必要があります。
		■アンケート回収率を上げる工夫	実施	実施	-	アンケート回答者を対象に抽選によるプレゼントを実施、回答率の向上につなげました。	
		□アンケート回収率	14.5%	26.3%	A	ワークショップを除いたアンケート回収率は16.9%。	
		■必要に応じ財団事務局、横浜市と情報共有	実施	実施	-	適切に実施しました	
7	各貸出施設の利用促進に対する取り組み及びプロモーション	■各室について稽古利用ができることをSNSやちらしで周知	実施	実施	-	「橋ががり」やホームページに利用案内を掲載しました。	【成果】 利用促進のための周知は、DMやホームページ、SNSを活用し、顧客、企業、学生など幅広く行い、新規の利用割引制度に9件の実績がでるなど成果を上げています。 【課題】 来館者の年齢層が高めで、貸館利用においては特に顕著です。新規の利用割引制度でも「初めて割(U25)」は利用がありませんでした。将来を見据え、若者に能楽堂に関心を持ってもらうアプローチが必要です。
		利用案内DM 送付件数【再掲】	50件	50件	B	再掲	
		□過去施設利用者	年2回	年4回	A	再掲	
		□近隣住民	3,000件	5,399件	A	再掲	
		□横浜能楽堂顧客名簿	10件	30件	A	再掲	
		□大学能楽サークル	実施	実施	-	利用案内、ホームページで周知しました。	
		■ツイッターやWEBページを活用し貸館情報、利用紹介や案内を告知	実施	実施	-	年間を通じてfacebook、twitterを使い事業を紹介しました。	
		■フェイスブックを活用し画像や映像とともに事業の紹介	実施	実施	-	WEBサイト、スマホサイトを継続して運営しました。	
		■アクセシビリティに配慮したサイトデザイン、スマートフォンサイトの開設	実施	実施	-	利用案内、ホームページで広報しました。	
		■本舞台の1時間単位での貸出のPR	実施	実施	-	懸案事項が多く、引き続き検討を続けます。	
		■WEBページでの施設空き状況の情報提供の検討	実施	実施	-	パーティー料金作成、ドラマや映画の撮影受入など計9件の対応を行いました。	
		■撮影利用、アフターコンベンション等の利用希望への積極的な対応	実施	実施	-	有料ごみ袋について打合せで明確化しました。	
		■公演利用者への付加サービスの提供の具体内容検討	実施	実施	-	再掲。朝割4件、応援割9件の利用がありました。	
		■初めて割(午前または25歳以下の利用者)と応援割(ワークショップ修了者)の仕組みの周知	実施	実施	-	利用料金、貸出マニュアルを作成。50社に案内を送付しました。	
■2階レストスペースでの打ち上げ、昼食利用等の提案	実施	実施	-				
8	お客様からの意見箱の設置及び対応によるサービスの向上	意見箱の設置	実施	実施	-	【成果】 目標どおり設置しました。回収件数7件でした。	
		□ロビー	1か所	1か所	B	ご意見3件。シャワー式トイレの設置要望など。	
9	物販サービスの実施	□楽屋	1か所	1か所	B	ご意見4件。舞台袖モニターの機能向上要望など。	
		■本舞台利用時にショップの営業を実施	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■新しいオリジナル商品の開発を検討	実施	実施	-	ぼち袋について検討を始めました。	
		□オリジナル生落雁「鏡板」について季節や催しに合わせた特別バージョンの販売	年2回以上	年6回	A	季節感を生かした色彩の限定商品を年間6パターン、7回販売しました。	
10	来館者及び外国人観光客に向けたWi-Fi用アクセスポイントの設置	■新てぬぐい「舞」と関連グッズの販売を強化	実施	実施	-	「橋ががり」での商品紹介、「濱ともカード」ガイドに広告を掲載しました。	
		■物販・チケット支払にクレジットカード・電子マネーの導入	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		フリーWi-Fiの提供	実施	実施	-		
		□ロビー・展示廊エリア 常時提供	1台	1台	B	適切に提供しました。	
		□見所エリア 必要時に提供	2台	2台	B	適切に提供しました。	

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

3 組織的な施設運営の取組、職員の確保・職能、配置及び育成	11	①明確な責任体制の構築、勤務シフトの設定 ②適切な休館日の設定 ③専門性人材の安定的確保と能力向上に対する方策の実施 ④求める役割を果たす責任者・職員の配置 ⑤各研修の実施	■管理運営チームリーダーが貸館と施設広報を担い、利用率達成を目指す	実施	実施	-	施設広報/施設利用促進への展開を意図したワークショップ等を積極的に実施しました。	【成果】 目標どおり実施しているほか、公演と作品制作のため台湾とのレジデンス(8月横浜、12月台湾)を行い、台湾に職員が出張しました。また、バリアフリー能に係り毎年度実施している「バリアフリー研修」では、知的障がい者について学び、知的障害者向けの施設見学会、避難誘導の訓練等の対応に生かすことができました。 【課題】 今後も館の運営・事業を円滑に行える体制を整え、引き続き人材育成の工夫を継続します。
			■プロデューサーとなる企画制作担当職員は、先輩後輩のペア制をとりOJTを実施	実施	実施	-	事業制作について中堅職員-若手職員のペア制により実施、専門人材の育成に取り組みました。	
			■館長(エグゼクティブ・プロデューサー):1名 経営グループ長:1名 管理運営チームリーダー(貸館営業担当):1名 職員:7名(企画制作4名、庶務経理1名、広報営業1名、施設管理1名) 補助職員:17名	配置	配置(一部変更)	-	職員7名のうち1名は補助職員(常勤、能楽堂での職員歴あり)を当て管理運営チームリーダーが統括しました。この他の補助職員は17名です。	
			■開館日数	339日	333日	-	消防設備更新のため、6日間の臨時施設点検日を設定。	
			■施設点検のための休館日	年間26日	年間32日	-	消防設備更新のため、6日間の臨時施設点検日を設定。	
			■館長を除き、ローテーションでの勤務体制	実施	実施	-	適切に勤務人員を配置しました。	
			■主催事業や貸館内容に応じて勤務体制を調整し、柔軟に対応	実施	実施	-	適切に勤務人員を配置しました。	
			□バリアフリー研修	1回	1回	B	中区社会福祉協議会と連携して研修を実施しました。	
			■公文協・劇音協ほか外部セミナーの受講を推奨し、専門知識の習得に努める	実施	実施	-	障害者アクセシビリティ向上、危機管理研修、英語でのおもてなしセミナー等、多岐にわたるテーマの研修に参加し、施設全体のスキルの向上に努めました。参加研修数12、参加延人数18人	
			■財団主催研修・横浜市研修へ職員を参加させ資質向上およびスキルアップをはかる	実施	実施	-	【財団内研修例】 予算マネジメント研修、クレーム対応研修、舞台系専門職員研修等 【横浜市主催研修】 施設管理者を対象とする出前研修、文化観光局研修「文化政策講座」、パブリシティ研修、都市ブランド調査結果説明会等 参加研修数14、参加延人数19人	
			■他施設の公演視察により職員の企画・運営能力向上をはかる	実施	実施	-	京都親世会館、国立劇場おきなわ等	
			調査研究のための出張	実施	実施	-		
			■国内	1か所	3か所	-	沖縄、京都/名古屋、山形(黒川能)	
			■海外	1か所	1か所	-	9月「花開く伝統 日台の名作と新作」の台湾公演の共同制作のために館長、プロデューサー2人の計3人が台湾に出張しました。	
4 本市の重要施策を踏まえた取組	12	①個人情報保護 ②コンプライアンスの遵守 ③適正な情報公開 ④人権尊重 ⑤環境への配慮 ⑥市内中小企業優先発注 ⑦男女共同参画の推進	■個人情報取扱いマニュアルに則り適切に対応	実施	実施	-	適切に対応しました。	【成果】 個人情報漏えいを含む事務処理ミスは発生しませんでした。 【課題】 来年度からのチケットシステムの窓口導入にあたって、顧客情報の管理方法が変更となります。改めて施設が扱う個人情報について職員全員が高い意識を持って臨む必要があります。
			□個人情報取扱い研修	年1回	年1回	B	年度当初、また職員の異動の都度、適切に実施しました。	
			■印刷物を中心にダブルチェックの徹底	実施	実施	-	適切に実施しました。	
			■コンプライアンス委員会での情報共有	実施	実施	-	適切に実施しました。	
			□全職員対象コンプライアンス研修	年1回	年2回	A	年度当初にコンプライアンス研修を実施。食品衛生の配慮が必要な夏季に賞味期限への留意を徹底する研修を実施しました。	
			□横浜市主催人権研修に職員参加	年1回	年2回	A	2回参加し、内容を職員間で共有しました。	
			■省エネルギー・節電・ごみ減量に取組む	実施	実施	-	適切に実施しました。	
			□中小企業への優先発注	全発注の9割以上	全発注の9割以上	B	適切に実施しました。	
			■労働時間を適切にコントロールし、超過勤務の抑制に努める	実施	実施	-	適切に実施しました(月平均16.5時間/人)	

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ文化事業目標①	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成、愛好者の拡大	能楽等の古典芸能の継承、振興や発展に向けた公演、講座・ワークショップの実施	普及公演「横浜狂言堂」	毎月第2日曜日 全12回	全12回	4/8、5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、12/9、1/13、2/10、3/10	【成果】 気軽に狂言に親しめる機会として定着し、リピーターも多く、券売率・入場者数ともに目標を上回りました。また、社会貢献のプロジェクト「もう一枚のチケット」の運用について招待先の児童福祉施設にアンケートを実施、今後の利用を促す働きかけを行いました。 【課題】 定例公演として人気が定着してきている分、新規客層の開拓が課題となっています。広報手段を工夫するなどして、より広い客層に足を運んでもらえるような工夫が必要です。	【評価できる点】 「横浜狂言堂」で実施する社会貢献のプロジェクトについて、より多くの児童が活用できるよう、児童福祉施設等へアンケートを実施するなどの働きかけを行っていることを評価します。 ・「バリアフリー能」では、例年の充実したサポート体制の提供等を継続するとともに、視覚障害者の方向性に鏡板の立体コピーを製作することや意見交換会への参加を働きかけること、より良い事業の実施に向けた取組を積極的に進めていることを高く評価します。 ・平成29年度から実施する「先生のための狂言教室」では、狂言鑑賞や教員でも指導経験が少ない古典芸能を授業で扱う機会に加え、能楽堂自体や横浜能楽堂の紹介に繋げたことを評価します。 ・券売率や入場者数についても目標を達成し、多くの来場者に向けて開かれた事業を行っていることが確認できました。 ・新規利用や新規リピーターの獲得に向けて、割引制度導入を行ったことを確認しました。 ・和のワークショップでは、古典芸能へ触れることや横浜能楽堂へ来館したことのない市民に向けて、様々な視点から横浜能楽堂を知ってもらう機会を提供したことを高く評価します。 ・「花開く伝統一日台の名作と新作―繡繡夢」では、横浜能楽堂ならではの視点による公演の企画力の高さを国際的に発信していることが確認できました。 ・「風雅と無常-修羅能の世界」や「能の五番 朝薫の五番」は、能楽とその他の芸術分野とのコラボレーションにより、古典芸能の専門文化施設として、創造性のある公演を積極的に実施したことを評価します。
		□券売率 実売数/販売席数	90%	99%	目標を大きく上回りました。 【各回券売率】4/8:99.2%、5/13:94.4%、6/10:96.0%、7/8:98.1%、8/12:99.2%、9/9:97.7%、10/14:99.6%、11/11:96.5%、12/9:99.0%、1/13:99.6%、2/10:100.0%、3/10:98.3%		
		□入場者数	437 人/回 (12回 5,244人)	447 人/回 (12回 5,363人)	券売率の目標達成により入場者数も増えました。		
	「クリエイティブ・インクルージョン」の趣旨を踏まえた、人種・国籍・宗教・障害の有無・性別・性的指向・年齢等に関係なくすべての人が参加できるとともに、ユニバーサル対応に向けた様々なサポート体制を整えた公演及び体験講座等の実施	普及公演「バリアフリー能」	年1回	3月17日	3月17日開催。点字による広報物、舞台触図、副音声、手話通訳、詞章の用意、触れる能面展示等各種サポートに加え、タブレット14台を貸出し、またスマートフォンで誰でも字幕を見られる形で字幕配信を行いました。また、鏡板の立体コピーを視覚障がい者の方のために準備しました。	【成果】 例年通り、さまざまな形でバリアフリーに取組み、サポートもより充実させ、能狂言をより楽しめるよう、改善しました。公演後の意見交換会では、次回開催につながる貴重な意見をいただきました。 【課題】 視覚障がい者の方への副音声の内容について、ソフト面にさらなる改善の余地があるため、さらに情報収集を行い、内容面での充実を目指します。	
		□券売率 実売数/販売席数	50%	59%	目標を上回りました。介助者チケット分を含めると80.9%。		
		□入場者数(介助者を除く)	244 人	290人	目標を上回りました。		
		□視覚障がい者・聴覚障がい者向け事前見学会開催	各1回	視覚・聴覚 各1回、知的 1回	視覚11人(うち介助者5人)、聴覚2人(うち介助者1人)、知的4人(うち介助者4人)、計17人が参加。		
		□公演終了後の意見交換会 ■介助者1名無料	1回 実施	1回 実施	視覚障がい者についての意見交換会実施(32人参加)。介助者93人が参加。		
	「クリエイティブ・チルドレン」の考え方に基づく、次代を担う子どもたち、その保護者、教育関係者等を対象とした施設内での能楽等の学習・体験機会、古典芸能に触れるきっかけの提供	講座「人間国宝・山本東次郎先生の狂言の時間」	年1回	8月11日	8月11日開催。親子で楽しむ公演。子どもが初めて観ても楽しめる狂言2曲と人間国宝の解説により狂言の面白さを伝えました。	【成果】 両講座ともに、人間国宝・山本東次郎師のお話があり、分かりやすい内容が好評でした。教員向け講座では質問も多数上がり、「今の子どもたちに伝えられる狂言のよさや大切にしていることが分かってよかった。」という声がありました。教員向け講座終了後に施設見学会を開催し、舞台の構造や能楽の歴史等について職員が案内し、より興味を深めていただきました。 【課題】 広報を工夫し、より多くの子どもたちの参加を促してまいります。 教員向けの講座でも教育委員会等とおして教育関係者に広報し、参加を募ります。	
		□券売率 実売数/販売席数	80%	100%	学校関係者への広報と子ども料金500円を設定したことにより完売しました。		
		□入場者数	388人	462人	うち子ども入場者107人 券売好調により、入場者数も目標を大きく上回りました。		
		■子ども料金1人500円を設定	実施	実施	学校関係者への広報と子ども料金500円を設定したことにより完売しました。		
特別講座「先生のための狂言講座」		年1回	8月11日	講座での経験を授業で子どもたちに伝え、古典芸能への興味につなげることを目的とし、教員及び教職課程学生を対象に開催。			
子どもたちの感性、創造性を育み、意欲を醸成させることのできるプログラムや継続性のある事業の実施	子ども狂言ワークショップ 入門編	3日間	3日間	夏休み中の小中学生を対象としたワークショップ。8月7、8、9日開催。	【成果】 子どもたちが積極的に取り組む様子が見られ、保護者の方たちの満足度も高い事業となりました。卒業編では、歴史ある横浜能楽堂の舞台上で本格的な装束で成果を発表することにより、子どもたちに大きな経験と成長の場を提供できました。 【課題】 今後も継続する事業なので、広報を工夫して、広く参加者を集めます。		
	□参加者数(小・中学生対象)	20人以上	26人	応募者47人。			
	子ども狂言ワークショップ 卒業編	10日間	10日間	舞台での発表を目標として入門編参加者のうち5人が参加。			
	□参加者数(入門編の参加者対象)	5人	5人	1/10、17、23、2/1、13、27、3/7、19、25、28 全10回。			
	「横浜子ども狂言会」	年1回	3月31日	卒業編からの5人が「いろはの会」とともに本舞台上で成果を披露。			
	□子ども狂言ワークショップ卒業編からの参加者数	5人	5人	稽古時間を選べるよう柔軟に対応した結果、5人の参加がありました。			
	□OB・OG組織「いろはの会」の参加者数を含めた参加者数	15人以上	20人	いろはの会からの参加者が多く、目標を上回りました。			
□入場者数	100人	150人	出演者の友人や学校の先生、昨年度の参加者等も参加し、来場者が増えました				
市内の子どもたちに対して文化芸術に触れる機会を提供するため、「横浜市芸術教育プラットフォーム」にコーディネーターとして参画し学校プログラムを実施	□「横浜市芸術教育プラットフォーム」学校プログラム狂言・古典芸能を軸にコーディネートを行う	5校実施	5校実施	六つ川小学校、鶴ヶ峯小学校、帷子小学校、東小学校、日野南小学校で狂言プログラムを実施。	【成果】 いずれも狂言大蔵流山本東次郎家の狂言をコーディネートし、小学校の教科書に掲載されている狂言「柿山伏」鑑賞を中心にプログラムを提供しました。 【課題】 今後も担当教諭と連携して、児童数や授業の進捗状況、児童の特質等、各校の状況に応じたプログラムを実施します。		
	6 能楽等の次世代の育成に向けて、若手の演じ手や公演等の作り手の積極的な登用	■通常の公演企画を通じて実力ある若手の演じ手を起用	実施	実施		2月9日企画公演「能の五番 朝薫の五番」で宝生和英、佐辺良和を起用しました。	

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展	7	古典芸能の魅力や興味や関心に応じて体験することのできるワークショップや講座等の開催	講座「初めての能楽教室」	年1回	1回	—	謡・仕舞:4/12、26、5/10、17、28、6/14、28、7/12、19、25 小鼓:5/10、17、24、31、6/14、21、7/5、12、19、26 大鼓:5/10、17、24、31、6/14、21、28、7/12、20、27 三教室合同発表会:7/28	【成果】 お稽古の機会が得にくい初心者向けの教室を平日夜間に開催し、昼間働く若い人も能楽に親しむことのできる機会を提供しました。35人が合同で稽古の成果を披露しました。
			□参加者数 謡・仕舞12人、小鼓12人、大鼓12人	合計36人	合計36人	B	三教室とも、定員を上回る応募がありました。	【課題】 今後も継続して実施していくことから、プログラムを工夫し新規受講者を確保していく必要があります。
	8	愛好者の定着に向けた古典芸能に触れる際や活動にあたってのサポート・相談体制を整え、継続的に技術を研鑽できる機会の提供	■横浜能楽堂主催ワークショップの修了者が継続的な稽古を支援するため、施設利用料の減免制度「応援割」の周知	実施	実施	—	ワークショップ受講中から終了後3か月まで第二舞台の利用料金が半額に、研修室2室の利用料金が1室分の料金となる「応援割」を開始しました。	【成果】 8件の利用がありました。
	1	本舞台・第二舞台を活用した公演等の開催	施設見学会付の和のワークショップ開催	2回以上	5講座11回	A	11/3館長が案内する能楽堂見学と能楽のイロハ(2回) 1/11能楽師(シテ方)が案内する能楽堂見学と能楽WS(3回) 1/12工作&見学「能楽堂で光の不思議を体験しよう」(2回) 2/1.7.10着付WS&狂言鑑賞会 2/23能楽師(狂言方)が案内する能楽堂見学と狂言WS(3回)	【成果】 日頃来館する機会のない層への横浜能楽堂周知と来館促進を図ることができました。工作&見学、着付ワークショップ&狂言鑑賞会では地域の施設や企業と連携することができました。
			□申込率	80%	131%	A	5講座10回で定員を上回る申し込みがありました。	【課題】 若い人の参加が少なく、若い層へ能楽の魅力を知らずアプローチが必要です。
			□参加人数	12人/回	合計351人	A	館長や能楽師が案内する回は特に盛況でした。	
		2	能・狂言等の継承性と創造性のバランスに配慮しつつ、横浜能楽堂独自の創造的な公演や古典芸能の多彩な公演の実施	特別企画公演「花開く伝統一日台の名作と新作—繡襦夢」	年2回	6月9日、6月17日	B	6月9日、17日の2回開催。横浜能楽堂と台湾の国光劇団との共同制作により、崑劇の古典作品「繡襦記」を下地に夢幻能の形式を取り入れ、日本の三味線音楽を融合させた新作「繡襦夢」を制作し上演。併せて日本舞踊と崑劇の古典作品の名作も上演しました。
		□券売率 実売数/販売席数	65%	71%	B	崑劇が日本ではなじみのないこともあり券売に苦戦しましたが、台湾関係者への販促を行うなどして、目標を上回りました。	【課題】 崑劇が日本ではなじみがなく、広報で苦戦しました。海外との共同制作は経費もかかるため、資金調達も課題です。今回は台湾関係組織等から協賛や広報協力がありましたが、今後も同規模の事業を実施する際は、企画内容や広報手段について工夫が必要です。	
	□入場者数	315人/回 (全2回630人)	365人/回 (全2回731人)	A	広報努力により日台双方の愛好家や関係者が来場し、目標を上回りました。			
	□豊田市、新潟市への巡回公演	各1回	各1回	B	6/10りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館能楽堂 6/16豊田市民能楽堂			
	(追加) 台湾での上演	—	台中公演2回 台北公演4回	—	台中公演9/8~9/9台中国家歌劇院(2回公演) 台北公演9/14~9/16台湾戯曲センター(4回公演)			
3	能楽等の鑑賞者を広げ、愛好者の定着を図るため、能及び狂言等の基本知識や曲の見どころ・背景などを分かりやすく伝える等の創意工夫を凝らした公演の定期開催	普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」	1回	12月16日	B	12月16日開催。初心者でも楽しめる能を選び、曲を理解するためのポイント解説を併せて行う公演。華やかさだけでなく能「土蜘蛛」について、新たな視点からその魅力を紹介しました。	【成果】 チケット発売直後から反響が大きく、早々にチケットは完売。初めて能を鑑賞したという観客が25%以上で、能の魅力を新たな観客に伝えることができました。	
		□券売率 実売数/販売席数	80%	100%	A	事前の広報努力により券売率が上がりました。	【課題】 チケットが早々に完売したために、新聞・雑誌などにはあまり掲載されませんでした。今後はネットなど広報範囲の拡大を検討する必要があります。	
		□入場者数	388人	458	A	券売好調により入場者数も目標を上回りました。		
4	文化専門施設として蓄積した高度かつ専門的なノウハウを発揮し、横浜や横浜能楽堂ならではの発信性ある魅力的な公演・事業等の実施	企画公演「風雅と無常—修羅能の世界」	全5回	全7回(11月特別講座を含む)	A	9/22、10/7、11/10、12/22、1/20、2/16、3/23「修羅能」の名曲を6回シリーズで上演。各回それぞれの演目まつわる雅楽の演奏や、和歌の披露、観音懺法の法要などを上演し、より演目の世界を体感できる工夫をしました。	【成果】 能楽以外の分野と連携した公演を実施することで、雅楽、和歌披露、観音懺法、画家・山口晃氏など、普段能楽堂へ来館する機会が少ない幅広いファン層へ横浜能楽堂の専門性や企画力を発信できました。	
		□券売率 実売数/販売席数	80%	78%	B	目標どおりの券売でした。11月特別講座は除いています。	「能の五番 朝薫の五番」では、能楽・琉球芸能それぞれのファンが多く足を運び、それぞれの芸能の魅力を理解してもらうことが出来ました。	
		□入場者数	388人/回 (全5回1,940人)	356人/回 (全7回2,494人)	B	実施回数が増えたので総入場者数は増えました。平均入場者数は、講座でプロジェクター使用のため座席を制限したこと等もあり、若干目標を下回りましたが、概ね目標どおりでした。	【課題】 企画公演「風雅と無常—修羅能の世界」では、普段能楽と馴染みのない顧客への広報で苦戦しました。能・狂言に馴染みのない人が増えている中で、公演の魅力を伝えられるよう、企画内容や広報手段について工夫する必要があります。	
		企画公演 横浜能楽堂・伝統組踊保存会提携公演「能の五番 朝薫の五番」第5回	年1回	2月9日	B			
		□券売率 実売数/販売席数	80%	100%	A	目標を上回りました。		
	□入場者数	388人	459人	A	券売率の目標達成と合わせて、目標を上回りました。			

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 能楽堂自体の魅力の発信	①貸館営業、広報営業担当の人員配置 ②能舞台の文化的価値や日本の伝統文化の発信、おもてなしの拠点となる文化プログラムやユニークベニュー等の企画、多言語対応を含む受入を行うことによる、横浜や横浜能楽堂の魅力や認知度の向上 ③観光・宿泊プラン、国際会議等、MICEと連携し、アフターコンベンション等への施設提供	□MICE関連展示会視察	1回以上	2回	7/19 海外&インバウンドマーケティング2018 8/23JTB「MICEユニークベニュー説明会」	【成果】 貸館営業、広報営業担当職員を配置し、発信力強化をはかりました。施設のパーティー利用など具体的なプラン作成し、企業や近隣に送付しました。また「能楽師が案内する能楽堂見学と能楽WS」は、体験と見学を組み合わせた提案プランにも適用可能なプログラムとなりました。 【課題】 2020年にむけた多言語化やサインの充実、ユニークベニューの取組みのさらなる充実が課題です。ユニークベニューについては、大型バス進入ができない一方通行、ロビーでのパーティー可能人数が見所定員より少ない等のハード面での制約があります。	【評価できる点】 ・第3期指定管理期間の重点的な目標の一つである、貸館や広報等の促進にあたり、見学会の拡充やMICEとの連携等に取組み、実績をあげていることを評価します。 ・「横浜能」や「横浜かもんやま能」との連携を継続し、市民主体の能楽振興への協力を継続していることが確認できました。 【課題】 ・区役所等からの協力依頼についても、積極的な協力や受入を行い、横浜能楽堂の地元を中心に施設を知ってもらうための取組を行っていることを確認しました。 ・職場体験やインターン生の受入、各学校の学習サポートを行うなど、次世代育成に繋がる取組を積極的に行っていることを評価します。 ・インターネットや新聞等の様々な媒体を活用して、事業を中心とした積極的な広報・プロモーションを行っていることが確認できました。 ・展示については、収蔵品等を適切に管理するとともに、見学者が能楽等の魅力を知る手段となる展示の実施を継続していることを確認するとともに、特別展「山口晃『昼ぬ修羅』」では、多くの来館者を集めたことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに様々な来場者が想定されることから、英語以外を含めた多言語化の拡充や多様な施設利用についての検討等を積極的に行うことを期待します。 ・地域等との連携については、現在の取組にとどまらず、地元企業との連携、横浜市域全体を見据えた地域や学校との連携等、事業展開の拡大を期待します。 ・主催公演等の映像等のアーカイブ化については、実現に向けて、継続的に取組むことを求めます。 ・事業や横浜能楽堂に関する情報発信に加え、能楽や能楽堂そのものの魅力、能楽等の古典芸能に関心を持つきっかけの提供等に繋がる広報を実施することにより、古典芸能のすそ野の拡大に向けて取り組むことを期待します。	
		□提案可能な日本文化体験プログラムの作成	1本	8本	・能楽師(シテ方)が案内する能楽堂見学と能楽WS ・能楽師(狂言方)が案内する能楽堂見学と能楽WS ・能楽体験/鑑賞付パーティープラン(6種)			
		□提案可能な公演鑑賞パッケージの作成	1本	2本	・能楽師解説付き鑑賞プラン(狂言編&能・狂言編)			
		□公演または文化体験プログラムのリリース	1本以上	2本	(文化体験プログラム販売実績) 能楽師(シテ方)が案内する能楽堂見学と能楽WS 能楽師(狂言方)が案内する能楽堂見学と能楽WS			
		□大規模合コン「街コン」または「大人コン」開催	1回以上	2回	6/10 Meeting Terrace 11/24「かもん山能」鑑賞付ツアー			
		□近隣ホテルとお食事付チケットプラン	1公演	2公演	6/10横浜狂言堂(サンケイリビング紙提携) 11/24「かもん山能」鑑賞付ツアー			
		□日本文化を紹介する和のワークショップの開催【再掲】	1回以上	5講座11回	11/3館長が案内する能楽堂見学と能楽のイロハ(2回) 1/11能楽師(シテ方)が案内する能楽堂見学と能楽WS(3回) 1/12工作&見学「能楽堂で光の不思議を体験しよう」(2回) 2/1.7.10着付WS&狂言鑑賞会 2/23能楽師(狂言方)が案内する能楽堂見学と狂言WS(3回)			
		■英語接客が可能なスタッフは「ENGLISH OK!」バッチ着用	実施	実施	— 実施しました。			
		■その他言語で接客が可能なスタッフは「◎ OK!」バッチ着用	実施	実施	— 中国語、ポルトガル語、ギリシャ語のバッチを着用しました。			
		■能・狂言の英文解説をすべての演目で用意	実施	実施	— すべての演目で英文解説を用意したほか、1公演でスマートフォンによる日本語、中国語の字幕配信を実施しました。			
		■館内サインのビクトグラム化の検討	実施	実施	— 3月に完成しました。			
		■インターネットチケットサイトの英語版提供	実施	実施	— 実施しました。			
		■(公財)横浜観光コンベンションビューローとの情報共有によるプロモーションの推進	実施	実施	— パーティー利用に関しての情報提供を2回実施しました。			
		(人員配置については、Ⅱ 3 11のとおり)						
		4 能楽等に関する地域等との連携事業	①国際文化交流拠点としての役割期待を踏まえた地域、地元企業等との連携、能楽等の振興に資する活動の実施 ②能楽師を中心とした演者、能楽等の団体・他の能楽堂や能楽等を支える伝統工芸に関わる作家や企業、愛好者の団体等との幅広いネットワークの形成 ③学生等をはじめとした職場訪問・職業体験やインターンシップ等の受入、専門知識を習得している段階の学生や市民ボランティア等、地域と連携し、愛好者や人材の育成支援 ④近隣小学校への能、狂言の学習サポート ⑤地域住民への公演告知等による能楽堂や古典芸能に触れる機会の提供 ⑥施設見学会の開催 ⑦地域の古典芸能振興として、実演家・地域企業・関連団体と連携・ハブを担う、能の公演の開催 ⑧近隣団体との協働事業への参加、近隣施設との協力 ⑨横浜市内在住外国人への広報	第66回横浜能(横浜能楽連盟との共催)	年1回			6月2日
□券売率 実売数/販売席数	85%			100%	A 完売しました。			
□入場者数	412人			469人	A 完売に伴い、入場者も目標を上回りました。			
□中・高校生の職場体験受入	2校			2校 海外大学生1名	A 昭和音楽大学インターンシップ(5/31-6/18) 沖縄県立芸術大学インターンシップ(3/14-19) 3月からアテネ国立大学演劇学部の学生のインターンシップを受入れ(5か月間。)			
□小・中・高校の見学・学習サポート	3校			6校	A 横須賀市立北下浦中学校、横浜市立東汲沢小学校 横浜市立師岡小学校、横浜市立名瀬小学校 横浜市立川上北小学校、神奈川学園高等学校 計414名			
□小・中校長会で見学会の案内	1回			2回	A 7/25、7/27に実施。			
■児童・生徒向けパンフレットの用意	実施			実施	— イラスト付きのパンフレット。見学会で使用。			
■「第35回横浜かもんやま能」(ふるさと西区推進委員会、西区役所との共催、事業運営・広報の協力)	1回			1回	— 11/24実施 入場者数456人 能「船弁慶」、狂言「清水」を上演。広報協力、チケット販売代行、当日進行を担いました。			
□施設見学会 月1回開催(うち1回は8月26日西区虫の音を聴く会と同日開催し、地域のにぎわいに貢献)	年間12回以上実施			29回	A 毎月1回の無料施設見学会の他にもオンデマンドの見学会、地域のイベントに合わせた見学会を開催しました。			
□施設見学会 参加者数	各回15人以上			35人/回	A 年間1,082人が参加。			
□近隣住民へのちらし(利用案内含む)配布	年2回			年4回	A 近隣マンションの管理組合に依頼し、住民の方への周知を依頼しました。			
□みなとみらい21・さくらフェスタ2018への参加	1回			1回	A スタンプラリー参加とショップ利用者にプレゼントを進呈しました。			
■「野毛まちなかキャンパス」実行委員会との協働	実施			実施	— 10/29開催。バックステージツアーとレクチャー。26人参加。			
■みなとみらい21「かもめスクール」との協働	実施			実施	— 11/8施設見学会、11/11「横浜狂言堂」鑑賞、6人参加。			
□西区 町歩き企画への協賛・共催	1回以上			5回	A 西区のスタンプラリー参加、参加賞の提供など。			
■紅葉ヶ丘エリアの5館連携について館長会に参加し協議	実施	実施	— 館長会議1回、担当者会議3回他、計6回参加。					

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

		<input type="checkbox"/> 英文タブレットガイド準備公演 <input type="checkbox"/> 英文の施設紹介ちらし再作成 <input checked="" type="checkbox"/> WEB ページ、ツイッターの多言語化を実現	1公演以上 1種 実施	2事業3公演 見送り 実施	A 6/6、17「花開く伝統一日台の名作と新作ー繡襦夢」、3/17「バリアフリー能」でタブレット、スマートホンで字幕提供。 C 紅葉ヶ丘再整備に伴い地図が変更となるため見送りました。 B WEBページは日本語、英語、中国語に対応しています。		
5 情報提供及び渉外、広報・プロモーション活動	7	①施設の紹介 ②公演、事業の紹介 ③横浜能楽堂友の会「かもん会」の運営 ④業務計画書等の公開 ⑤マスコミ等を中心とした幅広いプロモーションの実施 ⑥能楽関連の情報、資料の開示 ⑦公演・講座記録として開館以来の公演等の記録を整理し、「横浜能楽堂アーカイブ」構築の検討	<input type="checkbox"/> WEB ページアクセス数 ※新基準による <input type="checkbox"/> ツイッターフォロワー数 <input type="checkbox"/> 年間スケジュール印刷部数 <input type="checkbox"/> 3か月の行事予定「橋がかり」印刷部数 <input type="checkbox"/> 横浜能楽堂友の会「かもん会」会員数 <input type="checkbox"/> 広報資料送付先 <input type="checkbox"/> 新聞、雑誌の掲載 <input checked="" type="checkbox"/> ニコニコ動画にかわるインターネットによる広報手法の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 1F書架の閲覧についてWEBで周知 <input checked="" type="checkbox"/> 電話やメールでの問い合わせに対して迅速に回答 <input checked="" type="checkbox"/> 公演・講座記録についてプログラム、映像に分けて整理し、アーカイブについて検討	トップページ 10,000/月 ページビュー 49,000/月 2,350人 年10,000部 毎月10,000部 800人 新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約100社 年間24本 実施 実施 日本語及び英語に対応 実施	トップページ 13,649/月 ページビュー 120,211/月 2,519人 年10,000部 毎月10,000部 735人 実施 実施 実施 実施	A トップページ、ページビューともに目標を上回り、ページビューは昨年度220%増となりました。 B 目標を達成しました。 B 予定通り実施しました。 B 予定通り実施しました。 B 3月末現在。29年度は749人。 B 100社に広報資料を送付しました。 A 個別記事でインタビューなどに基づいたものを計上しています。 - YouTubeチャンネルを立ち上げ、企画公演「風雅と無常ー修羅能の世界」関連動画を試験的に2本アップロードしました。 - 適切に実施しました。 - 適切に実施しました。	【成果】 ホームページで、見やすく読みやすい情報提供を行いました。鮮度の高い情報発信はツイッターを中心に実施し、一例として貸館での舞台利用の様子を実況中継的に紹介し施設利用広報として活用しました。今年度初めてYouTubeでの動画配信を2回行いました。 【課題】 PR媒体として動画配信は欠かせないものとなってきています。今後も視聴者にとって魅力的なコンテンツは何かなど、館内で意見交換しながら取り組んでいきます。友の会「かもん会」は今年度も会員数が減っています。会員特典の見直しや友の会の将来像の検討などが必要です。
6 館内展示及び収蔵品の管理の実施	8	①常設展の開催 ②特別展の開催 ③収蔵品の管理 ④展示の和文・英文表記の充実	<input type="checkbox"/> 常設展 開催 <input type="checkbox"/> 常設展 観覧者数 <input type="checkbox"/> 特別展「山口兎『昼め修羅』」開催 <input type="checkbox"/> 特別展 観覧者数 <input checked="" type="checkbox"/> 常設展、特別展の英文表記の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 収蔵品を適切に管理	年2回以上 4,500人 1回 5,000人 実施 実施	年2回実施 2,866人 1回 8,777人 実施 実施	B 4/3-7/17および7/18-12/28 「初めて知る能・狂言の世界」 C 自主事業、貸館公演観覧者の人数は含まず、2階見学者数を計上。 B 内覧会:1/18、会期:1/19-3/23 A この展示を目的とした初来館者、特に若い世代の観覧者を多く集めました。 - 適切に実施しました。 - 適切に実施しました。パッケージエアコンの修理を実施しました。	【成果】 特別展は、山口兎氏の絵画作品を展示廊だけでなく能楽堂全体を使用したインスタレーションを制作したことが話題を呼び、多くのメディアに取り上げられました。展示を目的に初めて能楽堂に足を運んだ方も多く、山口氏の作品を楽しんでもらうとともに能楽堂という空間、また能楽の魅力についても発信することができました。 【課題】 館全体を使用したインスタレーションは、施設管理の観点から実現可能なものと、不可能なものがありました。今後も施設を適切に管理しつつ、より魅力のある展示を行っていきます。
7 その他文化事業に関する取組	9	①外部専門家(能楽関係者、研究者、文化団体、大学等)との協力体制・連携	<input type="checkbox"/> 一般社団法人 伝統組踊保存会との提携公演実施(Ⅲ① 2 4に記載) <input type="checkbox"/> 豊田市能楽堂、新潟りゅーとびあとの事業実施協力、連携 (追加) <input type="checkbox"/> 台湾での上演【再掲】	1回 各1回 -	1回 各1回 台中公演2回 台北公演4回	B 2/9横浜能楽堂・伝統組踊保存会提携公演「能の五番 朝薫の五番」 B 「花開く伝統一日台の名作と新作ー繡襦夢」6/10りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館能楽堂 6/16豊田市能楽堂 - 「花開く伝統一日台の名作と新作ー繡襦夢」台中公演9/8~9/9台中国家歌劇院(2回公演) 台北公演9/14~9/16台湾戯曲センター(4回公演)	【成果】 外部専門家と連携することで、より深く能楽堂の専門性を発信しました。 【課題】 専門性を維持しつつ、幅広く集客できるよう広報を工夫し、引き続き継続していきます。

平成30年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え方	①適切な料金設定 ②利用状況に合わせた支払方法 ③条例及び施行規則に基づく減免等の運用	■学校鑑賞会利用における半額減免を導入	実施	実施	利用実績1件、申請受付2件。	【成果】 減免により使いやすさを高めることで、次世代に向けた取組み、教育機関との連携の一端となりました。 【課題】 今後もPRに行い、次世代の能狂言、日本の伝統芸能への関心喚起につなげます。	【評価できる点】 ・条例等に基づき、適切に利用料金の設定・運用を行っていることを確認しました。 ・横浜市内以外の学校等へも減免の対象範囲を拡大し、貸館の促進や次世代育成の取組を行うとともに、利用実績をあげていることを評価します。 ・指定管理料以外の収入等の確保について、目標や提案内容の実現に向けて、助成金や協賛金の獲得に努めていることが確認できました。	
		■児童、生徒、学生の見学会の全額減免(料金設定・支払方法等は、II 1 1のとおり)	実施	実施	利用実績6件。			
		■減免についてのマニュアル作成(料金設定・支払方法等は、II 1 1のとおり)	実施	実施	6月に割引プラン運用マニュアルを作成しました。			
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	①自主事業収入・利用料金収入の安定的な確保 ②助成金、寄付金の確実な獲得 ③協賛金収入の獲得 ④利用料金収入の安定的な確保 ⑤貸館における友の会会報へのちらい封入サービス、主催公演パンフレットへのちらいはさみこみサービス等の提供 ⑥貸館公演におけるチケット作成代行、販売代行サービス等の提供 ⑦撮影料金の設定 ⑧オリジナル商品の開発及び販売 ⑨事業収支の健全性の基準設定及びそれに基づく適切な計画	□利用料金収入	16,200千円	15,742千円	B	前年度実績14,395千円(前年度比+9.4%)	【成果】 利用料金収入は目標より▲458千円下回りました。前年度収入を上回ったものの、引き続き指定管理料のみに依存しない収入構造とするため、貸館利用促進をはかり、利用料金収入をあげるよう広報に努めます。 助成金は、日本芸術文化振興会助成金が4,422千円目標を上回りました。 【課題】 利用料金収入が目標未達です。助成金については館内の情報交換を密に行い、効果的に活用できるよう事業を実施します。	【更なる取組を期待する点】 ・利用料金収入の目標未達については、現在取り組んでいるアフターコンベンションやユニークベニュー等を含めた貸館利用の促進の働きかけを継続し、利用率と一体で向上するよう取り組んでください。 ・文化庁等の助成金だけでなく、企業との連携等を進め、協賛金等の確保についても継続して取組むことを期待します。
		□日本芸術文化振興会の外部資金獲得	16,185千円	20,607千円	A	文化庁助成金は予定金額23,032千円から2,425千円減額支給となりましたが、達成指標を4,422千円上回り、目標を達成しました。		
		■貸館の手引きにより、ちらい封入サービス、チケット作成、販売代行の有料サービスの提供の周知を図る	実施	実施	貸館打合せ時に情報提供しました。			
		■撮影料金の設定	実施	実施	9月から運用開始し、利用実績2件、問合せ2件。			
		■オリジナルショップ商品の開発検討	実施	実施	ぼち袋について検討しました。			
3 経費削減等効率的運営の努力	①発注・事務処理、施設・設備管理等の留意による経費削減等効率的運営の努力 ②適切な人材配置及び超過勤務の削減及び職員のワークライフバランスを図ること等による人件費削減の努力	■限られた経営資源を適切に配分するとともに外部資金を積極的に導入することで経営を安定化し、施設で収支バランスをとる	実施	実施	経費削減、助成金獲得で収支均衡を図りました。	【成果】 目標どおり実施しました。 【課題】 引き続き経費削減に努めるとともに、職員のワークライフバランスをはかりながら超過勤務の削減及び人件費削減の努力を継続します。		
		■ちらし作成枚数の精査、不要不急の支出の抑制を行う	実施	実施	公演ごとにチラシ部数を精査しました。			
	■業務の効率化に努め、超過時間のコントロールを行う	実施	実施	実施	平均16.5時間/月。			

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	1					【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	1					<p>第3期2年目を迎えた30年度は、管理面では開館23年を経過し、施設や設備の老朽化が進む中で、施設管理業務を確実に実行し、利用者の安全、安心、快適を保持しました。</p> <p>運営面では、パーティープランや割引制度などを開始し、新規利用者の獲得に注力しました。また、年間29回の施設見学会を開催し、能楽堂の魅力を幅広く紹介しました。このような取組みは地域や教育機関との連携にもつながりました。</p> <p>事業面では、台湾との共同制作公演「花開く伝統 日台の名作と新作」、能の二番目物・修羅能に焦点を当て様々なジャンルとのコラボレーションを図った「風雅と無常—修羅能の世界」(6回シリーズ)などで横浜能楽堂の企画力の高さをアピールしました。また、展示の特別展「山口晃『屋敷修羅』」では、2か月間で9千人近い観覧者を集め、若い世代の初来館につながりました。「バリアフリー能」や「横浜狂言堂」(毎月1回開催)などの普及公演も目標を上回る観客を集め、幅広い方々にむけて能・狂言の素晴らしさを伝えることができました。</p>	<p>平成30年度は、指定管理者の業務の基準や目標達成に向けて取り組むとともに、様々な成果をあげたことを高く評価します。</p> <p>事業に関しては、横浜能楽堂の専門性や企画力を発揮した公演を継続し、高い券売率を維持するとともに目標を達成していることを確認しました。横浜市における古典芸能の専門文化施設として、能楽等をはじめとした古典芸能全般のすそ野の拡大や魅力の発信の実現や横浜地域全体を見据えた地域連携の拡大等について、さらなる取組の実施を期待します。</p> <p>施設運営に関しては、本舞台の利用率は目標を達成しているものの、利用料金収入は目標未達です。現在取り組んでいるアフターコンベンションやユニークベニュー、和体験事業等を含めた多様な貸館利用の促進に向けた取組を継続し、古典芸能の愛好者拡大や持続可能な経営を進めることを求めます。</p> <p>施設管理においては、業務の基準等の通り、実施がされていることを確認しました。引き続き、日常的に適切な管理を行うとともに、指定管理者本部や市との情報共有を徹底することにより、文化財の保護や施設の長寿命化に向けて寄与する取組の積極的な実施を期待します。</p>